

1 管内の概要

(1) 港の位置

国際拠点港湾千葉港は東京湾に面し、千葉港区・葛南港区から成り、海岸延長は133kmに及んでいる。このうち、当事務所が所管する千葉港葛南港区は、東部地区・中央地区・西部地区の3つの地区から成り立っている。

ア. 東部地区は、習志野市、船橋市（一部）に位置し、京葉食品コンビナート、冷凍食品卸売団地、自動車及び製紙取扱企業等が立地しており、専用の-12m岸壁を始め、公共の-4~-7.5m岸壁が整備されている。

イ. 中央地区は、船橋市、市川市（一部）に位置し、食品、石油及び化学工業、機械金属取扱企業等が立地しており、専用の-6.5m岸壁を始め、公共の-2~-12m岸壁が整備されている。

また、直轄事業として進められた-12m耐震強化岸壁への改良整備が完了し、平成26年5月から供用開始するとともに、航路等の浚渫が現在進められている。

ウ. 西部地区は、市川市に位置し、機械金属、石油及び化学工業取扱企業等が立地しており、専用の-6m岸壁を始め、公共の-5.5m岸壁が整備されている。

(2) 概況

令和元年における葛南港区の利用状況は、入港船舶数11,649隻、取扱貨物15,309千トンである。そのうち外貿貨物が2,672千トン（17%）、内貿貨物が12,637千トン（83%）となっている。

公専別では、取扱貨物については公共貨物4,226千トン（28%）、専用貨物11,083千トン（72%）で、そのうち、公共貨物の外貿貨物は2,372千トン（56%）、内貿貨物は1,854千トン（44%）で、専用貨物の外貿貨物は300千トン（3%）、内貿貨物は10,783千トン（97%）である。

その貨物の主なものは、金属機械工業品（鋼材、完成自動車、輸送機械等）58%、化学工業品（石油製品、セメント、化学薬品等）20%、特殊品（金属くず、廃土砂等）13%、鉱産品（砂利・砂、石材等）8%等である。

今後、千葉港葛南港区は、地理的な好条件を背景に、外貿貨物の取扱量の増加や品目の多様化が進むと考えられるとともに、自然環境と調和した港湾の質的向上が求められている。